

製造間接費 第3問 問題

次の各問に答えなさい。

1. 当工場は、製造間接費の配賦を予定配賦で行っている。次の資料にもとづいて、予定配賦率、製品別の製造間接費予定配賦額および製造間接費配賦差異を求めなさい。なお、製造間接費配賦差異については、() 内に不利差異か有利差異のいずれかを記入すること。

(資料)	製造間接費年間予算額	7,200,000 円
	基準操業度(機械稼働時間)	12,000 時間
	当月の実際機械稼働時間	
	S 製品	400 時間
	T 製品	300 時間
	U 製品	200 時間
	当月製造間接費実際発生額	520,000 円

予 定 配 賦 率	円／時間
S 製品への配賦額	円
T 製品への配賦額	円
U 製品への配賦額	円
製造間接費配賦差異	円 ()

2. 次の取引を仕訳しなさい。ただし、使用する勘定科目は、製造間接費、仕掛品、製造間接費配賦差異とする。

- (1) 製造間接費を、直接材料費を基準にして、予定配賦した。予定配賦率は45%で、当月の直接材料費は1,800,000円であった。
- (2) 当月の製造間接費実際発生額は840,000円であったので、配賦差異を製造間接費配賦差異勘定に振り替えた。

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

3. 次の諸勘定の〔 〕内には適切な相手勘定科目を、()内には適切な金額を記入しなさい。なお、製造間接費は直接労務費を基準に予定配賦しており、予定配賦率は120%である。

賃金・給料		製造間接費		
	諸口 ()	材料	32,000	[] ()
		賃金・給料	38,400	製造間接費配賦差異 ()
		経費	48,600	
仕掛品		製造間接費配賦差異		
材料	88,600	製造間接費	5,000	
賃金・給料 ()				
[] ()				

製造間接費 第3問 模範解答

1.

予 定 配 賦 率	600	円／時間
S 製品への配賦額	240,000	円
T 製品への配賦額	180,000	円
U 製品への配賦額	120,000	円
製造間接費配賦差異	20,000	円 (有利差異)

2.

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	仕 掛 品	810,000	製 造 間 接 費	810,000
(2)	製造間接費配賦差異	30,000	製 造 間 接 費	30,000

3.

賃 金 ・ 給 料		製 造 間 接 費	
	諸 口 (133,400)	材 料 32,000	[仕 掛 品] (114,000)
		賃金・給料 38,400	製造間接費配賦差異 (5,000)
		経 費 48,600	

仕 掛 品		製造間接費配賦差異	
材 料 88,600		製造間接費 5,000	
賃金・給料 (95,000)			
[製造間接費] (114,000)			

【解説】

1. 製造間接費の予定配賦の解法手順に従って解いていく。

① 予定配賦率を求める。(製造間接費予算÷基準操業度)

$$\text{予定配賦率} \quad ; \quad \frac{7,200,000 \text{ 円}}{12,000 \text{ 時間}} = 600 \text{ 円/時間}$$

② 予定配賦額を求める。(予定配賦率×実際操業度)

S 製品への予定配賦額 ; 600 円/時間×400 時間=240,000 円

T 製品への予定配賦額 ; 600 円/時間×300 時間=180,000 円

U 製品への予定配賦額 ; 600 円/時間×200 時間=120,000 円

③ 製造間接費配賦差異を求める。

製造間接費		
実際発生額	予定配賦額	
520,000	540,000	S 製品 240,000円
		T 製品 180,000円
		U 製品 120,000円
配賦差異 20,000		合計 <u>540,000円</u>

実際発生額より予定配賦額のほうが多い差異のことを有利差異や貸方差異という。

2.

- (1) 予定配賦額 ; $1,800,000 \text{ 円} \times 45\% = 810,000 \text{ 円}$

この予定配賦額を製造間接費勘定の貸方から仕掛品勘定の借方に配賦する。

- (2) 問題文で与えられた実際発生額を製造間接費勘定の借方に記入し、(1) で求めた予定配賦額を製造間接費勘定の貸方に記入する。そして、製造間接費勘定の貸借差額で製造間接費配賦差異を求める。

製造間接費		
実際発生額	予定配賦額	
840,000	810,000	
	配賦差異 30,000	製造間接費配賦差異 30,000

3.

賃金・給料		仕 掛 品	
消費額		直接材料費	
133,400		88,600	
		直接労務費	
		95,000	
		製造間接費	
		114,000	
		製造間接費	
		実際発生額	予定配賦額
		間接材料費 32,000	114,000
		間接労務費 38,400	
		間接経費 48,600	配賦差異 5,000
		119,000	製造間接費配賦差異 5,000

まず、製造間接費配賦差異 5,000 円を製造間接費勘定の貸方へ記入し、借方合計との差額で予定配賦額 114,000 円を計算する。これを仕掛品勘定の借方へもっていく。金額の前には、お互いの相手勘定科目を記入する。

仕掛品の借方の賃金・給料は、直接労務費であり、次のように求める。

直接労務費 ; $114,000 \text{ 円} \div 120\% = 95,000 \text{ 円}$

製造間接費の予定配賦額 114,000 円は、「直接労務費 $\times$ 120%」で計算されるため、その逆の計算をすることで、直接労務費を求めることができるのである。

最後に、賃金・給料の諸口欄を、直接労務費と間接労務費の合計で求める。

賃金・給料消費額 ; $95,000 \text{ 円} + 38,400 \text{ 円} = 133,400 \text{ 円}$